



☆「志望理由書」の書き方について - 2 -

21号でアドバイスした内容を「志望理由書」にしっかり記載しても、まだまだスペースがあるなら、「自分の長所」を書いて売り込んでください。「部活動の成績」や「ボランティアの経験」を書くことも重要ですが、「自分の長所・高校時代の経験・活動が目標とする職業にどのように結びつくか」分析したこと等を記載できるとなお良いでしょう。この部分のアドバイスは「自己アピール」を書くことを求められた場合にそのまま利用できます、

「進学を希望する学校では、学業以外にどんなことにチャレンジをしたいか」を書いてもいいですが、特に指示がない限り「志望理由書」に強く求められる内容ではないので、書きすぎに注意しましょう。ただし、「チャレンジしたいこと」が将来的に自己実現につながるのなら、書き方次第では、プラスに作用することはあります。例えば、「大学では時間を見つけ、積極的にボランティア活動をしたい」「小説を書き文学賞に応募したい」等なら、その前後の表現次第では、自己実現につながられるのではないのでしょうか。

「です・ます調」で書く人もいますが、私は、「志望理由書」は、「だ・である調」で書くことを勧めます。書きたいことがたくさんあれば、「です・ます調」ではいたずらに字数を喰うため、それだけでも書きたいことが書けなくなりもったいないからです。ただし、絶対に「です・ます調」はいけないという決まりはありません。

また、文章は上手いに越したことはないですが、「志望理由書」は、必ずしも名文である必要はありません。記載者の思い、人となり相手が伝わる文章を書くことを心掛けましょう。

よくある勘違い・ミスに、形容詞を重ねるだけで、全く内容が薄いもの、一つの例も挙げずにたくさんとか色々とかの言葉を使うこと、「また、また」と何度も何度も「また」を連発することがあります。

「、（読点）」を多用し、一文がやたら長くなり結局どれがどれに繋がるかよくわからない文もNGです。あまりブツブツと切りすぎると、それはそれで読みにくいですから、うまいタイミングで「。（句点）」を使い、一文が長くなりすぎないようにしましょう。

「志望理由書」は、ある意味「ラブレター」と言っても過言ではありません。相手の魅力を十分に理解していることが相手に伝わり（うまく相手を褒めることが必要です）、自分の長所をしっかりアピールできれば、恋愛成就(合格)の可能性が高まるのです。

つまり、相手を知る（調べる）努力、自分を知る（掘り下げる）努力が「志望理由書」作成には必要です。すべては、自己実現のためです。頑張るのは当たり前です。君たち自身で書かなければ「志望理由書」は出来上がりません。満足いくものができるまで、何回でも何回でもチャレンジしましょう。真摯に「志望理由書」を書くことで、成長し、志望校にふさわしい人間となるのです。

精一杯がんばれ。君たちならきっと素晴らしい「志望理由書」を作成できます。